

今福線 MAP 活用策

小村 晃一

1. はじめに

昨年 9 月 28 日、NHK 夕方のニュース番組「100 年後に残したい島根の遺産」というコーナーにて、当方研究部会の取り組みが紹介された。島根県技術士会の表示が少なかったことにやや不満を覚えたが、今福線遺構 MAP 作りを行うと報道されたため、本気で制作しなければならないことになった。その後、あわててメンバーが集まり最終段階の現地確認、打ち合わせを行い、MAP 作りに取り組んだ。(詳細は他のメンバーに託す。)

2. 現地最終確認

全区間を 3 班に分けて作業をした。私は 2 班(チーム大畑)に一兵卒として参加した。2 班の担当エリアはランドマーク的なものがあまり無く、県道佐野波子停車場線と下府川が並行している比較的単調な山間部で、途中浜田自動車道と交差する区間であった。よって作業時間は他班と比べ短く済んだようである。メンバーが大畑チーフのもとで効率的に動いたことも付け加えておく。

対象区間内の遺構で、特に印象に残ったのは、地元自治会作成の案内版が見える 4 連アーチ橋である。土木学会認定推奨土木遺産銘板のある 4 連アーチ橋の近接部が災害復旧と思われる工事で修復されていたが、景観に配慮されている所が皆無で、情けなく、腹立たしくさえ思った。何故こんな工事が平然と実施されたのか。早期にコンクリートブロックが風化し、周辺と馴染んでくれることを切望する。

施工前



施工後



また、代表的な遺構としてよく取り上げられる 5 連アーチ橋が存在する。県道下であるため、車で走行していると浜田方面からは見落としやすい。MAP を手にもち、発見する楽しみを味わっていただきたい。



3. 今後の方針及び MAP 活用策

今福線はまさしく「島根の貴重な産業遺産」として相応しい。この MAP を今福線遺構の魅力を広く伝えていくための足掛かりにしたい。

今後の MAP 活用策、改善点、についての私見を以下に記す。

- ・ 関係機関への情報発信

完成した MAP を地元、行政、観光協会、教育関係機関、報道機関に広報する。また、島根技術士会 HP 等を利用し、意見収集し、改良をしたうえで印刷物（パンフレット）としてある程度の部数を配布したい。とりあえずは、技術士会から費用の捻出をお願いしたい。

- ・ 今福線遺構 写真コンテストの開催

訪れる度に、季節毎の遺構を取り巻く風景に魅了された。特に晩秋の頃の景色は見ごたえがある場所がたくさん存在する。写真愛好家を全国から集め、遺構をモチーフとして写真コンテストの開催を提案する。MAP はそのコンテストに利用しやすいように編集し直すことも必要になるだろう。市、地元、観光関係者に働きかけて、実現にむけた活動を行いたい。

- ・ ウォーキング大会、オリエンテーリング大会、サイクリング大会等の開催

新線と旧線の交錯する区間は、ウォーキングコースに適している。自転車や歩きみちとしての安全性を確保したのち、コース指定すると良い。コース毎の MAP を新たに作成することも必要。また、サイクリングは、近隣の宿泊施設や、温泉（美又温泉）の企画として提案し、観光客誘致に繋げたい。今福線 MAP 全線において、県道は昼間、車両の通行がほとんど無いため、安全にのんびりとしたサイクリングが楽しめそうだ。

- ・ 維持管理体制の構築

現在遺構のほとんどは管理されていない状況であり、維持管理体制の構築が望まれる。特に、一部を県道として供用されている、5連アーチ橋は、スパン中央部の亀裂が目立ち、端部の地山も崩壊しているため、調査が必要だと思われる。トンネルは一般に開放してあるものが少ないが、遺構めぐりの企画をすることになれば、立ち入りの可否を明確にしておく必要がある。

- ・ 「おろち泣き橋」の PR

研究部会が提案した名称「おろち泣き橋」を広くアピールしたい。地元の熱意で、案内看板や入口も設置された。最初に橋の下に立ち、水の流れる音を聞き、「この橋は水管橋なのかなあ。」と馬鹿な発言をしたことがきっかけとなった。この珍しい現象を地元の子供たちに紹介し、教育の一環として活かしていただきたい。